

# がんセンター だより

Tochigi  
Cancer Center  
Dayori

地方独立行政法人  
栃木県立がんセンター



## 特別号

2020

p1 病院長あいさつ

p2 腫瘍内科について

p3・4 頭頸科について

p5・6 泌尿器科について

p7・8 骨軟部腫瘍・整形外科について

p9 腹腔鏡手術からロボット手術へ

p10 希少がんに対する当院の現状と今後の展望

vol.  
15

## 病院長あいさつ

地方独立行政法人栃木県立がんセンター 病院長

尾澤 巖



当センターは、栃木県におけるがん医療の中心的役割を担うがん専門病院として、県民の皆さまや関係医療機関、関係団体の皆さまの御支援、御協力を賜りながら、常にごがん医療に関して最高水準の診療ができるよう、設備やスタッフ等の充実を図って参りました。

2015年に地方独立行政法人へ経営形態を変え、5年目の節目となる本年は、県内唯一のがん専門病院として、全てのがんの病態に応じた適切な治療とケアができるよう、常勤医を増員し医療体制を充実させて診療に取り組めます。

また、ゲノム等の情報に基づいた、最良で最適な治療を適用するがんゲノム医療の推進や、専門的、先進的ながん診療のための希少がんセンターやロボット手術センターの整備など、更なるがん医療の水準向上に邁進して参ります。

今回のがんセンターだよりでは、新体制で診療を開始する頭頸科や泌尿器科、骨軟部腫・整形外科、腫瘍内科の対象疾患や診療科の特長等の詳細について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

県民の皆様から安心して医療を受けられる「選ばれる病院」となるため、また、患者さんにとって最適な医療を提供するため（for the patient）、関係医療機関や関係団体の皆さまとの連携を密にし、協働して栃木県全体のがん診療の質向上のために取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも皆様の御支援御指導の程、よろしく願い申し上げます。

## 腫瘍内科について

2020年4月より腫瘍内科の診療を常勤医師1名体制で診療を開始いたします。消化器癌を中心に薬物療法の診療を行います。

### 医師紹介



### 仲地 耕平 (なかち こうへい)

腫瘍内科 科長  
札幌医科大学卒

日本内科学会総合内科専門医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／  
日本肝臓学会専門医／日本膵臓学会指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

### 御挨拶

内科医、外科医、放射線診断医、放射線治療医、内視鏡医など各分野の専門医と協議し、がん患者さんひとりひとりに最適な治療方針を決定していきます。

また、各臓器ごとの標準治療を理解し、個々の病態に応じた適切な薬物療法を行って参ります。

### 対象疾患

食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵臓癌、神経内分泌腫瘍、  
消化管間質腫瘍、原発不明癌 など

### 特長

#### ① 最新の治療の提供

近年のがん薬物療法の発展は目覚ましく、日々、新しい治療薬が日常臨床の場に導入されています。従来の殺細胞性薬剤に加えて、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤が様々な癌種で用いられるようになってきました。当院でも常に最新の治療を提供できるよう準備を行います。

#### ② 徹底したインフォームドコンセント

治療の導入に際しては、治療効果や副作用についてご理解が得られるよう十分に説明し、納得したうえで治療を受けて頂けるよう心がけております。

残念ながら、がん薬物療法には副作用が伴いますが、使用する薬剤によって副作用の種類や、出現時期が異なります。それらを十分に理解したうえで、予防策や軽減する対処を行いながら治療を継続できるよう、注意深く診療を行います。

#### ③ 臨床研究への取り組み

新たな治療開発にも積極的に取り組み、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)や治験にも参加して参ります。

## 頭頸科について

頭頸科は頭頸部癌に対する根治療法としての手術療法、(化学)放射線療法、再発癌に対する化学療法を担当する診療科です。暫くの間、非常勤医師のみで外来診療のみを行ってまいりましたが、2020年4月から常勤医師2名と非常勤医師で診療を再開いたします。

分担する頭頸部癌は耳鼻咽喉科領域に生じる癌の総称で、頭蓋底から上縦隔までの範囲に及ぶ疾患です。また、癌以外の悪性腫瘍(肉腫、悪性リンパ腫等)の診療を行うことがあります。いずれもが希少な癌で、患者さんにとって診療内容を理解しにくいと思いますので丁寧な説明を心がけていきます。

### 医師紹介



#### 横島 一彦 (よこしま かずひこ)

統括診療副部長  
頭頸科 科長  
日本医科大学大学院卒

日本耳鼻咽喉科学会専門医 / 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修指導医 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 / 日本頭頸部外科学会頭頸部がん指導医 / Auris Nasus Larynx、Laryngoscope 査読委員

### 御挨拶

この度、栃木県立がんセンター頭頸科に着任いたしました横島一彦と申します。平成元年に日本医科大学を卒業して以来、頭頸部癌診療を行ってまいりました。その間に得た知識と経験をもとに、栃木県での頭頸部癌診療の充実に貢献したいと考えています。

暫くの間、非常勤医師で、外来診療のみを継続する状態が続いておりましたので、本格的な診療を再開するための準備には多少の困難もあると思いますが、皆様の協力を得て頑張っております。よろしく願いいたします。



#### 加藤 大星 (かとう たいせい)

頭頸科 医師  
日本医科大学卒

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医

### 御挨拶

頭頸部癌には手術療法や化学療法、放射線治療があります。いずれの治療も摂食や呼吸、発声・発語に重大な機能障害を起こします。生活に直結する障害ですので、患者さんとサポート頂くご家族によく理解をしていただくことが必要です。そのため、各治療による利点・欠点を丁寧に説明し、ご希望・不安を把握した上で、より良い治療を行いたいと思っております。治療中は患者さんに大きな負担をかけることとなります。その時点での問題点に細かく対応することはもちろん、治療後のことを見据えた大きな目をもった医療を心がけます。

私は2歳から約4年間を宇都宮で過ごしました。幼少期を過ごした宇都宮を中心とした栃木の診療に携われることに運命を感じます。これまで前任地で培った医療に、地域の特性を合わせた医療を提供したいと思っております。

## 対象疾患

頭頸部癌（口腔・舌癌、鼻・副鼻腔癌、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌、大唾液腺癌、甲状腺癌）、大唾液腺良性腫瘍、甲状腺良性腫瘍

## 特長

### ① 適切な診断と治療方針の決定

頭頸部癌の診療は正確な病理診断と病期診断から始まります。我々は患者さんの負担を最小限にし、最少の検査で正確な診断を行います。その結果に基づく治療方針の決定には時間をかけて、根治性とQOLのバランスを考え徹底した真のインフォームドコンセントを目指します。

### ② 質の高い手術療法

頭頸部癌の治療を考える上で手術は非常に重要です。信頼性の高いエビデンスが少ないため、我々の今までの知識や経験も参考に、患者さん本人やご家族の希望も考慮して適応/術式を決定します。手術手技では繊細な鋭的切離で原発巣のSafety Marginの設定、内頸動脈に接した頸部転移の切離、遊離組織移植による再建手術を行っています。それにより、手術適応の拡大や根治性の向上が可能になると考えています。

### ③ 化学放射線療法による有害事象への対応

進行癌であっても、状況によっては化学放射線療法で根治を目指すことが可能です。しかし、深刻な有害事象を伴う治療です。低侵襲な機能温存治療と考えられがちですが、広範囲の放射線照射を、高容量CDDPまたはCetuximab併用で行うと、副作用のため治療を完遂できない時があります。我々は関連各科とのSeamlessな支持療法を徹底し、最後まで根治にチャレンジします。

### ④ 再発症例に対する化学療法

頭頸部癌が再発、遠隔転移した場合には治療方法がないとされていましたが、最近では薬物療法を行うことが多くなっています。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を駆使することで生存期間の延長を目指す治療が行われます。我々は治療適応を判断するにあたり患者さんに寄り添い、治療方法を決定します。

### ⑤ 臨床研究への取り組み

臨床で得られた知見を纏め、将来の臨床に生かすことも我々の仕事です。診断や薬物療法についての多施設共同研究に積極的に参加するだけでなく、手術療法に関する研究を立案し、それを具体的に進めたいと考えています。

## 泌尿器科について

2020年4月より泌尿器科の診療を、常勤医師2名と非常勤医師を含めた体制で開始いたします。

泌尿器科は尿路と男性性器、および副腎や副甲状腺などの内分泌臓器を守備範囲としており、これらの臓器に発生する疾患に対し、内科的、外科的アプローチを行う診療科です。栃木県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供等の役割を担っており、当科では泌尿器領域において上記の役割を果たせるよう努力して参ります。

### 医師紹介



**貫井 昭徳** (ぬくい あきのり)

泌尿器科 科長  
大分医科大学卒

日本泌尿器科学会専門医・指導医／日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本内視鏡外科学会技術認定医／ロボット支援手術施行資格／日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会腹腔鏡下小切開手術施設基準医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

### 御挨拶

当診療科は月曜日から金曜日までは毎日外来診療を行い、セカンドオピニオンにも対応したいと考えております。近隣の医療機関の先生方のご協力を頂きながら、病診連携を行い、がん専門病院としての役割を果たして参ります。また、院内各科、獨協医科大学病院および関連病院との連携を密にし、患者さんに安全な専門的医療を提供できるよう努力して参ります。



**武井 航平** (たけい こうへい)

泌尿器科 医師  
獨協医科大学卒

日本泌尿器科学会認定専門医

### 御挨拶

4月より栃木県立がんセンターの泌尿器科で診療に携わることになりました武井航平と申します。患者さん一人一人にとって、より良い専門的治療を提供することを第一に考え、日々の診療に取り組んで参ります。まだまだ未熟者ではありますが貫井先生のご指導の下、精進に努め、患者さん、ご家族の皆さん、院内各科の先生方、スタッフの皆さん、近隣医療機関の先生方のお役に立てよう全力を尽くしますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

**対象疾患**

腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍 等

**特長****① 腎癌・腎盂尿管癌の治療**

腎癌に関しては、早期であれば臓器温存手術、小切開手術および腹腔鏡手術による低侵襲手術を中心に行っていきたいと考えております。進行癌に対しては分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬等の薬物治療を中心に、他科と協力しながら手術療法や放射線療法を行います。腎盂尿管癌に関しては、早期であれば腹腔鏡による低侵襲手術を行い、進行癌では抗癌剤による化学療法や免疫チェックポイント阻害薬等の薬物治療を行います。

**② 膀胱癌の治療**

膀胱癌では早期では内視鏡手術が中心となります。症例によっては、抗癌剤やBCGの膀胱内注入を行います。局所進行癌では膀胱全摘除＋尿路変向術が標準治療となりますが、症例により放射線治療や抗癌剤投与による膀胱温存療法を選択することもあります。転移症例では抗癌剤、免疫チェックポイント阻害剤等の薬物治療を行います。

**③ 前立腺癌の治療**

PSA検診の普及している栃木県において前立腺癌の診断、治療は重要であり、早期発見を目指して生検を積極的に行います。治療に関しては手術治療、放射線治療、ホルモン治療および抗癌剤による化学療法を行います。手術治療においては2020年度中に手術支援ロボット『ダヴィンチ』を導入予定であり、低侵襲手術を心掛け、患者さんの生活の質を可及的に落とさない様に留意します。

**④ その他**

副腎腫瘍においては腹腔鏡手術を積極的に行い、抗癌剤等の薬物治療も対応可能です。

精巣癌、陰茎癌、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍に関しても内科的、外科的アプローチにより、専門的な治療を行います。

## 骨軟部腫瘍・整形外科について

2020年4月より骨軟部腫瘍・整形外科の診療を常勤医師2名と非常勤医師を含めた体制で診療を開始いたします。

骨軟部腫瘍・整形外科は希少がんである悪性骨軟部腫瘍（いわゆる肉腫）や良性骨軟部腫瘍、さらには全てのがんに共通の問題である骨転移やがん患者さんの一般整形外科的問題や骨粗鬆症の治療を行う診療科です。

### 医師紹介



#### 菊田 一貴 (きくた かずたか)

骨軟部腫瘍・整形外科 科長  
慶應義塾大学卒

日本整形外科学会専門医／日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医／日本整形外科学会認定スポーツ医／日本がん治療認定医機構認定医／日本整形外科学会認定骨・軟部腫瘍医／難病指定医／身体障害者指定医／ロコモアドバイザー／国立がん研究センター研究所希少がん研究分野客員研究員／東京歯科大学市川総合病院整形外科非常勤講師／骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG) 幹事／北関東慶應整形外科研究会世話人／日本電気泳動学会理事／小児運動器疾患指導管理医／慶應義塾大学医学部整形外科学客員講師（2020年4月～）

### 御挨拶

北関東圏の患者さんを中心に希少がんである悪性骨軟部腫瘍（いわゆる肉腫）や良性骨軟部腫瘍の臨床・研究に従事しています。

また、全てのがんに共通の問題である骨転移診療やがん患者さんの一般整形外科的問題や骨粗鬆症治療にも積極的に取り組んでいます。

希少がんは専門施設での治療、専門施設間の連携が非常に重要であるため、私の出身大学である慶應義塾大学病院や国立がん研究センターなどと臨床、研究の両面において連携しながら患者さんに寄り添い最良の医療が届けられるよう活動しています。



#### 中川 瑠美 (なかがわ るみ)

骨軟部腫瘍・整形外科 医師  
杏林大学卒

日本整形外科学会整形外科専門医

### 御挨拶

患者さんが安心して治療を受けられるように心掛けております。  
よろしく願い申し上げます。



**対象疾患**

悪性骨軟部腫瘍（肉腫）、良性骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、  
がん患者さんの一般整形外科疾患や骨粗鬆症

**特長****① 常勤医師による診療**

当科の最も大きな特徴は、県内で唯一、常勤体制で骨軟部腫瘍の診療にあたっているということです。当科が開設される以前は、骨軟部腫瘍は専門医のいる施設での治療が必要なため、患者さんは県外の専門施設まで足を運び、診療を受ける必要がありました。当科の開設により、多くの骨軟部腫瘍患者さんが県内で治療を完結できるようになり、患者さんおよびその家族の皆様への負担は大きく軽減しています。

**② 運動器機能維持や骨転移について**

わが国の超高齢社会化に伴い、運動器の機能維持は健康寿命延伸のために非常に重要です。そのため、当科では骨軟部腫瘍患者さんの診療のみならず、全てのがん患者さんの運動器の問題にも積極的に取り組んでおります。

さらに、がん患者さんの運動機能に影響を与える大きな問題の一つである骨転移診療にも積極的に取り組んでおり、多職種チームでの骨転移カンファレンスも行っております。

**③ 臨床研究への取り組み**

骨軟部腫瘍は希少疾患であるため、治療の武器が少なく、この40年近く、基本的な治療方法が変わっておらず、現在でも最も良い治療は手術となります。そのため、新しい診断、治療方法を開発するためには基礎的な研究が必要であるため、当科では、国内で最も大きな骨軟部腫瘍多施設研究グループであるJapanese Musculoskeletal Oncology Group(JMOG：骨軟部肉腫治療研究会)の栃木県の代表幹事として、多施設共同研究にも積極的に参加しています。さらに、国立がん研究センター希少がん研究分野、東京歯科大学市川総合病院、慶應義塾大学医学部整形外科教室腫瘍グループ、順天堂大学医学部整形外科教室などと連携した研究も行っております。

このように、北関東圏を中心に骨軟部腫瘍患者さんのために臨床、研究の両面において最良の医療を提供できるよう活動しております。

## 腹腔鏡手術からロボット手術へ



小澤 平太 (おざわ へいた)

大腸骨盤外科 科長

本邦で腹腔鏡手術が始まってもうすぐ30年になろうとしています。

その傷口の小ささから、「整容性に優れ、痛みが少ない、患者さんに優しい手術」というのが、この手術の最大の利点です。事実、患者さんにも大変喜ばれ、手術の1週間後に元気に退院されていく姿はそれ以前にはとても想像がつかないものでした。加えて、骨盤深部やその周辺の細かな神経線維・血管走行までよく見えることから、われわれの解剖学的知識も深まり、もはや、「腹腔鏡手術不要論」はまかり通らぬ時代にまでなったと言えます。細かいところにまで手(目)が届く、というのは手術のQualityを確実に上げます。そして、それは、患者さんにとって大きな利益につながるのです。

さて、次の30年を担う外科手術は何か？それはロボット手術です。ロボットは腹腔鏡手術をもってしてもなしえなかった能力を兼ね備えています。人間の関節以上に曲がる自在な鉗子機能、まるで自分が体の中に入って手術をしているようなリアリティ感、高度手振れ防止機能による安定した手術、これらの機能はすでに腹腔鏡を凌駕しており、まさに日進月歩の勢いで進化し続けています。

本邦では2012年4月に前立腺悪性腫瘍に対するロボット手術が初めて保険収載され、いまや本邦のロボット支援前立腺悪性腫瘍手術件数は年間10,000件を超えています。その後、腎部分切除術に対しても保険収載され、2018年4月にはついに胃や食道、直腸、肺、子宮、膀胱、心臓などにも広く適応が拡大されました。それを機に、国内でのロボット需要はさらに高まり、全国でロボット(da Vinci)を導入しているのは370施設に上っています(2020年2月時点)。栃木県内でもすでに7施設で導入されており、当センターでは2020年度中に導入する予定です。

このようにロボット手術は急速に広まっています。2020年1月に日本内視鏡外科学会(JSES)が、ロボット手術の術者要件から「JSES技術認定医」を外したことも今後さらに広まっていく要因になるでしょう。しかし、この手術は腹腔鏡手術にも増して難易度の高い手術です。高度な技術と十分な経験を積んだ医師、優秀なメディカルスタッフによるチームがあって初めてロボット手術の恩恵を得ることができるのです。「優秀なロボット」を使いこなすにはそれだけの準備が必要であり、当センターでは、導入に先駆けてすでにWGを形成してチーム作りを始めています。

最先端で、かつきわめて質の高いがん医療(手術)を県民の皆様に広く享受していただくことが私たちの務めであると思っています。

## 希少がんに対する当院の現状と今後の展望



菊田 一貴 (きくた かずたか)

骨軟部腫瘍・整形外科 科長

希少がんとは、特定のがんを指す言葉ではなく、発生頻度の低いがん全体を指す言葉です。5大がんに比較して、診断や治療、研究に携わる人材、経済的な支援などに乏しく、診療体制も不十分なのが現状です。そのため、5大がんの5年生存率が60%程度であるのに対し、希少がんは40%台と治療成績は不良であり、多くの課題を残しています。

骨の肉腫、軟部肉腫、頭頸部腫瘍、脳グリオーマ、眼腫瘍、中皮腫、神経内分泌腫瘍、小児がんなど200種類近い悪性腫瘍が希少がんに分類されます。個々の希少がんは、がん全体の1%に満たないまれな腫瘍ですが、すべての希少がんを合わせると、がん全体の15～22%となり、肺がんや乳がんに匹敵する数になります。希少がんの問題は決してまれなものではなく、患者さんの治療成績向上のための診療体制や研究体制の整備構築が急務な分野であります。

当院では、まずは肉腫に対する診療体制の基盤を形成するため、2018年7月から骨軟部腫瘍・整形外科を開設し、県内の肉腫患者さんに対応する体制を整えて参りました。県内で肉腫に対応可能な施設は当院のみであり、県内全域あるいは近隣県から沢山の肉腫患者さんの紹介を受け、診療を行っております。これまでは、骨軟部腫瘍・整形外科は常勤医1名体制でしたが、2020年4月からは常勤医2名体制とし、よりきめ細かな診療を行って参ります。

さらに、頭頸科を2020年4月から常勤医2名体制で新たにスタートさせ、肉腫のみならず、頭頸部に発生する希少がんにも対応できる体制を整えて参ります。

高度化・複雑化するがん医療において、従来の診療科の枠を超えた対応がますます求められるようになり、最適な治療の提供、新たな治療開発のために、臨床医のみならず、研究者、企業、行政、さらに患者さん自身も参加した、より幅広く広範な連携が必要な時代であり、当院でもこれらの新しい波に乗って、将来的には、すべての希少がん患者さんの抱える問題に全力で取り組んでいけるような体制づくりを進めて参りますので、皆様の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。



## 栃木県立がんセンター 予約窓口のご案内

ご紹介、ご予約をありがとうございます。  
当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。

# 予約センター (直通)

# 028-658-5012

(受付時間：平日 8:30~16:30)

※がん予防・遺伝カウンセリング外来のご予約は、ゲノムセンター (下段をご参照ください) へ直接お問い合わせください。

※予約枠に制限があり、ご希望に添えないことがあります。予めご了承ください。

### 受診当日、患者さんにお持ちいただくもの

- ・保険証、各種医療証
- ・診療情報提供書 (紹介状)
- ・各種検査結果、画像データ (お持ちの方)
- ・お薬手帳 (お持ちの方)
- ・当センターの診察券 (お持ちの方)

### ※がん予防・遺伝カウンセリング外来

| 医師    | 診療日                   |
|-------|-----------------------|
| 菅野 康吉 | 火曜日午前、水曜日午後、第1第3土曜日午前 |

## 交通のご案内

### JR宇都宮線

- JR宇都宮駅西口から関東バス「江曾島行」で「県立がんセンター前」下車。徒歩1分 (乗車時間約25分)

### 東武宇都宮線

- 江曾島駅東口から関東バス「JR宇都宮駅行」で「県立がんセンター前」下車。徒歩1分 (乗車時間約5分)

### 東北自動車道

- 鹿沼インターチェンジから宇都宮方面へ向かい、滝谷町交差点を右折南進し、JR陸橋を越え3つ目の信号を左折 (約9.4km)
- 鹿沼インターチェンジから宇都宮方面へ向かい、宮環鶴田陸橋を右折。下砦上アンダーに入っすぐ江曾島方面へ左折し7つ目の信号を左折 (約8.2km)



初診・再診  
ともに  
予約制です

## 予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。

### 医療機関からの病診連携に関するお問い合わせ

#### ● 予約センター

TEL 028-658-5012(直通)  
平日 AM 8:30~PM 4:30

#### ● 地域連携センター

TEL 028-611-5503(直通)  
平日 AM 8:30~PM 5:15

### がんに関するご相談

#### ● がん相談支援センター

TEL 028-658-6484(直通)  
平日 AM 8:30~PM 5:00

#### ● ゲノムセンター

TEL 028-611-5480(直通)  
平日 AM 8:30~PM 5:00

### がん予防・遺伝カウンセリング外来についての予約やお問い合わせ

がんセンター  
だより

特別号

令和2年(2020)  
3月23日発行

vol. 15

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター  
広報広聴センター  
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13  
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669

がんセンターの情報は

栃木県 がん

検索

URL <http://www.tochigi-cc.jp>